

9/1/2002

## 用水路 昔語り掲載

地元の古老達からの聞き取り調査を行っています。趣旨を伝えると、皆さん気持ち良く応じてくださいます。そんな中で気になることを耳にしました。小平に先祖代々住まれ、ご自身も大事にしてこられた用水路を、小さな子供が「ドブ川」と呼んでいるのを聞き、大層心を痛められたというのです。

小平に移りすんで来られた方にとっては、水もチャロチャロだし鉄板で覆われている用水路は「ドブ川」に映っても仕方ないかも知れません。しかしこの用水路は決してそんなものではありません。小平の用水路と言えば玉川上水と野火止用水が有名ですが、地元の人々にとっては「迷惑な川」でした。なぜなら玉川上水の水は江戸の人々のための飲み水であり、野火止用水の水は埼玉の人々のもので、地元の人々のためのものではないばかりか、汚さぬように掃除したり、護岸が崩れると修理に駆り出されたりしたからです。つまり有名なこの二つの用水路は、小平の人々の上を通り過ぎていくものでしかなかったわけです。

小平の人々を支えた水こそ細い用水路なのです。いかに人々が用水路を大事にし、生活の隅々にまで利用していたかは、地元の人々が今でも用水路を「川」と呼んでいることから察せられます。私達小平の新参者は、まずそのことから認識する必要があります。さらに「川」の水は二つの用水路とは異なり二次処理水ではなく多摩川の天然な水です。地元の人々は今でも「川」の水を汚さぬよう気を付けています。無頓着にゴミを投げ捨て、「川」をドブ化させているのは、むしろこちらの方かも知れません。少しずつ聞き詰りを掲載します。是非読んで、豊かな時代をご理解下さい。

## 市民版環境配慮指針づくりに参加

小平市が「環境基本計画」を策定したのを受けて、市民参加の環境配慮指針づくりが始まりました。「こだいら 水と緑の会」からも3名が参加し、向こう一年間の予定で行政に反映されるような効果的な指針づくりをしたいと張り切っています。また様子など逐次報告します。

## 用水路 昔語り①

〇氏：大10年生・男性・学園西町

子供の頃は青梅街道から裏にずっと野火止用水まで畑が伸びていて2/3 が畑で1/3 が雑木林だった。南も2/3 が畑であとは雑木林というか原生林だったね。その落ち葉を燃料にしたり堆肥の素にしてた。今の中央公園の雑木林、この線までが当時の雑木林の線だった。

大正の頃は井戸を使っていたから、でも昭和10年頃まで水を一升瓶に入れて部屋で冷やしていたもんだよ。冬は用水も凍っちゃうんで、氷を割って鍋・釜洗ったり顔も洗った。洗うのには薬縄や灰（炊事に使った木炭の灰をミガキ粉として使用）を使っていた。風呂も「スイ風呂」って言ってね、10人入ろうが20人入ろうが量は一定なの。だから最後は風呂には入ったが、先の人のかみでかえって汚くなったりしてね。毎日風呂に入れない人が3割だったかな。夏はタライに水入れて太陽熱で温めて入ったね。顔洗うのも洗濯・炊事用具も直に川で洗ってたね。「川の水は三尺流れれば真水になる。」って言ってね。

昔の川はもっと深くて常時満水でね、ハヤ・ゲバチ・ナマズ・鯉・カワニナなんていたよ。あちこちに杭が打ってあるからカワニナの卵が育つのよ。蛍がいるのは当たり前で、夏は蚊帳の中に放って遊んだもんだよ。（続）

小平の用水路をせせらぎとして復活させる活動に貴方も参加しませんか？

連絡先「こだいら 水と緑の会」事務局

馬場 淑子 TEL/FAX 042-345-8772

HP <http://www21.u-page.so-net.ne.jp/fc5/gaia/>